

当科における血液がんの診療



血液内科では、藤井医師、新谷医師、木村医師の専門医3名、常勤医師1名、後期研修医1名で入院を担当します。主な疾患は悪性リンパ腫、急性白血病、骨髄異形成症候群です。昨年度の新入院患者数は、それぞれ98名、24名、13名でした。

悪性リンパ腫の治療

月単位で進行する中悪性度リンパ腫では、進行期ではリツキシマブ併用化学療法を行い、限局期では化学療法に放射線治療を追加します。緩徐に進行する低悪性度リンパ腫では、低腫瘍量ではリツキシマブ単剤治療を行い、高腫瘍量ではリツキシマブ併用化学療法を行います。急速に進行する高悪性度リンパ腫では、急性白血病に準じた強力な化学療法を行います。

急性白血病の治療

白血病には急性骨髄性白血病と急性リンパ性白血病があります。若年では初回に寛解導入療法を行い、その後地固め治療を行います。再発リスクが高い場合は造血細胞移植を追加します。骨髄性白血病の3割は70歳以上の高齢者です。臓器障害の合併例や75歳以上の場合は、アザシチジンとベネトクラックス内服の併用治療によるマイルドな治療を行います。

その他、血球減少、血球増多、出血素因へも対応します。

他院からの紹介に随時対応します。急を要する場合は、藤井医師または新谷医師までご連絡ください。当日の対応を検討します。

合併する慢性疾患については併診いただければ幸いです。今後とも病診連携、病病連携に努めてまいります。

